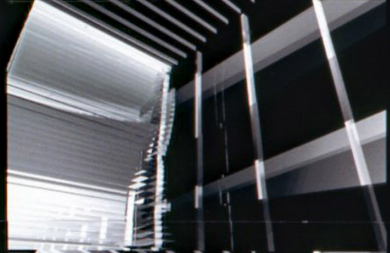


虚空に積み上げられたガラス

ガラスは隔てられた空間の気配を映し出す



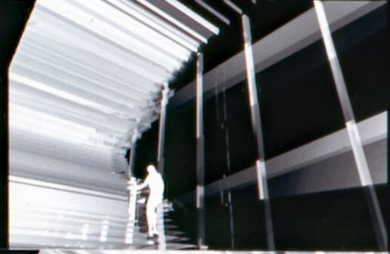
揺動し、動き始めるガラス

ガラスはその艶やかな表面を、静かに滑り始める



流れゆくガラス、留まるガラス

ガラスは大地となり、壁となり、天蓋となる



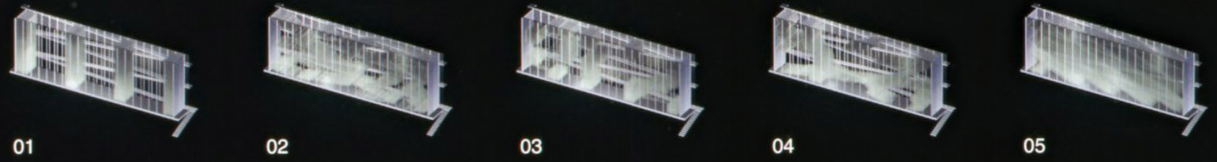
姿を変えていく空間

ガラスはヴォイドを開き、拡げ、繋ぎあわせる



空間に満ちていく光

ガラスは光と、人々のざわめきと、その想いを映し出していく



space variation axonometric

ガラスに存在と詩を問いかける...

ガラスは実体として“見えざるもの”であり、
ガラスは観念として“光の結晶”である
ガラスは実体と観念の間に位置している

水平にスライドするガラス

動き出す壁、自由に変化する空間
“透明な壁”としてのガラス
実体はヴォイドを切り出し、空間が現出する

垂直に積層されたガラス

揺らめく光、深い海の底のような空間
“凍れる光”としてのガラス
うつろいゆく光は肉を離れ、世界に顕現する



the frozen light

“凍れる光”によって刻まれ、彩られた可変流動空間



01



02



03



04



05

space variation elevation 1:400